

国内農業を存続させるために 企業参入のモデル作りを実践

株式会社OSMIC

代表取締役執行役員社長

ながわ ひでゆき
中川 英之

Profile

1999年、山田&パートナーズ会計事務所(現:税理士法人山田&パートナーズ)に入所。公認会計士として監査・コンサルティング業務に従事する傍ら、2015年、オーガニックソイル(現:株式会社OSMIC)代表取締役に就任。AKIBAホールディングス社外監査役、株式会社アースカラー代表取締役なども務めている。

付加価値の高いトマトで 安定した定価販売を実現

高齢化が進み、後継者がいない日本の農業を存続させるためには企業の参入が必要と、当社では独自開発した土、肥料、ハウスを活用した農産物の栽培から販売までをパッケージにして企業にご提案しています。2018年に三菱地所と

の合弁会社メックアグリ設立を皮切りに、19年には阪急阪神ホールディングスと、20年には三交不動産、ジェイ・イー・ティと業務提携し、農業ビジネスをサポートしています。

中心となるのは高糖度ミニトマトの通年栽培。そもそもこの事業は副社長の渡邊誠一が病害に強い作物を作ろうと、島根大学と共に土

を研究開発していたことに端を発します。いろんな作物を試した結果、偶然美味しいトマトができました。これなら土を販売するよりも、この美味しさで付加価値の高いものを作り、企業に参入してもらう方がビジネスとして面白いのでは、と会社を立ち上げました。

次に、当社の培土「オスミックソイル」に最適な栽培方法・栽培

設備を開発して安定的栽培を実現させるとともに、生産物に定価を決めました。毎日価格が変わる生鮮品に定価をつけるなんてと呆れられましたが、生産を管理し価格が安定すれば売り上げが見えてきます。その結果、企業が通常の投資意思決定をすることができます。こうしたユニークな挑戦をしない限り、企業の農業参入はCSRの域を脱することはできないと思います。

ブランド化により 農地拡大を推進

将来は、企業も日本の農業の担い手とならざるを得ないと考えています。現在の農家は高齢化し、後継者問題もあり、毎年減少しており、とても持続可能な状態ではありません。ところが、企業が栽培を行い生産物をそのまま市場に出すとペイできない。原因のひとつは規模が小さいから。

企業らしく大資本を投入して土地を購入し、効率のいい大規模農業を行えば低価格で高品質のものができるかもしれませんが、現状の日本では農地を自由に購入することができません。これでは企業は勝負ができません。

だからこそ私たちは商品価格を上げる努力をしています。美味しさに関係ない「1キロいくら」の世界ではなく、トマトの美味しさに対する価値を価格に正しく反映させることを提案しています。そのブランディングに対し、農業界では破格の広告宣伝費を使っています。今はバランスが釣り合っていますが、ブランディングを続けることで農地も増えているの

で、2年後には追い付くと思っています。そこまでは私たちの使命と考えています。

農地高付加価値化に向けた「農業+α」

トマトの次なる商品としてパプリカも準備していますが、まずはトマトのブランド化が先決。ブランディングの途中で次のアイテムを売り出すとブレると思い、時期を見ています。最終的には「OSMIC=美味しい」とイメージされるブランドにしていきたい。

また、OSMICのブランディングの一環として稲敷市の51haの農地を農業で利用する他、観光農園、マルシェやレストラン・カフェ、宿泊・温浴施設などを展開中。今後、稲敷市以外の自治体で

も展開予定です。ただ思った以上に時間がかかっているのが実情です。我々のブランディングはもちろん、農地にプラスαの価値を加えて高付加価値化し、収益獲得機会を多様化することが、サステナブルで豊かな農業、地方創生にも貢献すると信じ、自治体にも働き掛けています。

日本の農業と地方の将来を考えた「農地+α」ですが、海外では農業コンテンツ以上に農業テーマパークのコンテンツの引き合いが多いです。特に中国は地方で付加価値の高い農業を行い、都市部から人を呼び込みたいとの構想があることから、高くても美味しいもの、人が呼べるテーマパークの需要はあるはず。実現すれば日本とは桁違いの規模になるのではと期待しています。



企業名: 株式会社OSMIC
 TSR企業コード: 01-488104-7
 事業内容: 農業ビジネス及び事業展開のコンサルティング、農産物の販売・プロモーション、肥料及び培土の製造・販売、土壌改良材の輸入、販売及び製造
 設立: 2015年5月
 住所: 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-9-8 茅場町第2 平和ビル6F
 TEL: 03-5623-5444
 WEB: <https://osmic.jp/>



植物工場を軸に、農業テーマパークを展開